

## 1. 科学技術への投資

- ・ 国家100年の計から科学技術の投資をおこたってはならない
- ・ 第3期科学技術基本計画で5年間で25兆円の投資目標
  - ⇒ 実績はあと一年を残して16兆円にすぎない
- ・ 米国は、科学技術関係で本予算の30%を超える補正予算
- ・ 革新的な技術を生み育てる科学技術の研究施設設備へ1兆円の投資
  - ⇒ 短期的のみならず中長期的にも効果

## 2. グリーンスクール構想の提案

- ・ 全国の小中学校を、以下のように新築・改修
  - 学校で使用するエネルギーを全て賄う太陽光発電システムや燃料電池を備える
  - 子供たちが理科に親しめるような理科室を設ける
  - 児童の全てが高速光通信で結ばれたITを利用できる
  - ⇒ 最新の環境エネルギー技術を活きた教材として使いながら教育  
2050年に大人になる子供に環境問題について意識を深めてもらう
- ・ 併せて、耐火、災害情報通信設備を持たせる ⇒ 災害時の拠点
- ・ 事業規模 2～3兆円（新築・改修 3万6千棟以上）

# グリーンスクール構想（仮称）

～低炭素社会の実現と子供達の科学技術への興味を高めるために～

参考資料

## 目的

- 小中学校の耐震対策工事に併せ最新の環境エネルギー技術等を導入し、ゼロエミッションスクールを目指す
- 生徒が最新の環境エネルギー技術に触れ、低炭素社会への意識向上と理科への興味を増進させる

## 要素

### 【エネルギー自給：発電】

- ・校内のエネルギーのほとんどを賄うことを目指し、太陽光発電、風力発電、燃料電池等を導入

### 【省エネルギー】

- ・高効率照明、高効率空調、断熱材・断熱ガラス、BEMS※、等を導入し、エネルギー効率を高める
- ※ BEMS (Building Energy Management System) : ビルの機器・設備等の運転管理によってエネルギー消費量の削減を図るための省エネ技術  
(例 : 人を自動的に感知して照明を自動的にON/OFF等)

### 【教育】

- ・理科教育の充実 : 環境エネルギー技術の仕組みをはじめとする理科を好きになるような理科室を整備
- ・I T教育用パソコン : 将来の本格的なI T社会を支える人材育成のため、一人一台のパソコンを配置  
(高速光回線の整備を含む)

### 【防災対策】

- ・地震など災害時でも電力自給できる防災拠点としての役割
- ・蓄電池、電気自動車用充電スタンド : 余剰電力を蓄え有効に活用

### 【低炭素都市の核】

- ・学校区の事務所・家庭の低炭素化を促進する先導的役割



## 波及効果

- 最新の日本の環境エネルギー技術の市場の創出、拡大
- 全国の学校へ展開することにより、公共投資として経済対策に貢献
- 再生可能エネルギーによる発電が可能のため災害時の拠点としての機能が強化される

# グリーンスクール構想（仮称）

～低炭素社会の実現と子供達の科学技術への興味を高めるために～



※ BEMS (Building Energy Management System) : ビルの機器・設備等の運転管理によってエネルギー消費量の削減を図るための省エネ技術  
 (例: 人を自動的に感知して照明を自動的にON/OFF等)